

死 靈

越前の國の代官、野本彌治衛門の歿した時、その下役の者共相謀つて、その故主人の遺族をだまさうとした、代官の負債の幾分を償却すると云ふ口實の下に、その家の財寶家具全部を押へた。その上、故主人が無法にも自分の資産の價値以上の債務を契約したやうに見える偽りの報告書を整へた。この偽りの報告を彼等は宰相に送つた、そこで宰相は越前の國から野本の妻子の追放命令を出した。その頃、代官の家族は、たとへ當主の死後でも、何かその人に非行があつたときまれば、幾分責任を負はされたものであつた。

しかし、その追放命令が野本の未亡人に正式に交付された時、その家の女中に不思議な事が起つた。何かものに取りつかれたやうにひきつけて、身ぶるひを شدした、ひきつけが終つた時、すつくと立ち上つて宰相の役人達と故主人の下役とに叫び出した。

『さあ、おれの云ふ事をよく承れ。汝等に話して居るのは女でない、おれは彌治衛門——あの世から歸つた野本彌治衛門——だ、おれが淺ましくも信じてゐた者共から招いた悲しさと腹立たしさを、その悲しさと腹立たしさを餘り歸つて來たのだ。……汝等恩知らずの不都合な下役のもの共、

どうして汝等はこれまで受けた恩を忘れて、この通りおれの財産をなくし、このおれの名を辱しめるやうな事ができるのだ。さあここでおれの面前で、役所とおれの家の會計の取調べをして見せる。家來を一人目附の處へ帳簿を取りにやれ、その取調べを照し合せて見せる』

女中がこんな言葉を口走つた時、居合せたものは一同驚いてしまつた、彼女の聲や態度は、野本彌治衛門の聲や態度であつたから。疵もつ足の下役共は青くなつた。しかし宰相の代表者は直ちにその女の願は充分かなへさすべき旨を命じた。役所の會計帳簿は直ちに彼女の前に置かれた、——それから目附の帳簿は運ばれた。そこで彼女は計算を始めた。一つの誤算もなく、彼女は凡ての計算をして總計を書いて、誤りの項目を直した。彼女の書體は正しく野本彌治衛門の書體であると見られた。

さて計算の再検査ができ上つた時、女は正しく野本彌治衛門の聲で云つた。

『さあこれで一切でき上つた、もうこれ以上おれは何もできない。それでおれはおれの來た處へ歸る』

それから横になつてすぐに寝込んだ、死人のやうに二日二晩眠つた。「取りついて居る魂がぬけると、とりつかれた人に大きな疲労と深い眠りが来る」再び彼女が起きた時、彼女の聲と態度は若い女の聲と態度であつた、さうしてその時もその後如何なる時も、野本彌治衛門の亡靈にとりつかれてゐた間のでき事を思ひ出す事ができなかつた。

この事件の報告が直ちに宰相に送られた、その結果宰相は追放の命令を取消したばかりでなく、代官の遺族に大きな賜物を與へた。その後種々の死後の名譽が、野本彌治衛門に與へられた、その上、その後長く家は政府の恩顧を受けて甚だ榮えた。しかし下役の者どもは相當の罰を受けた。

(田部隆次譯)

Shiryo. (Koto.)